

# 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 1月 4日

事業所名 伊東市立さくら園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		部屋が広いので、パーテーションなどで区切ることや用途に合わせた使い方を工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	6			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2		個々に対する支援の仕方について、工夫したり調整をしてはいるが障害の特性に応じ事業所の設備が十分であるかという点「はい」とは言えない。→職員で再確認する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間になっている	6		おもちゃの消毒など定期的に行い、清潔を心がけている。高い所になってしまう子などいるので上らないよう工夫している。刺激を減らし活動に参加できるように配慮している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	毎月職員会議を実施している。	その都度話をしたりするようにしているがなかなか伝わらないことも多い。→時間の取れるときには打ち合わせを設け話し合うようにしている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4		外部評価は行えていない。→今後業務の見直しのためには必要なことなので、検討していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	隣接園と合同で園内研修(感覚統合、救急など)を行なった。	外部機関の先生に来てもらい活動後のカンファレンスなどで勉強にはなっているがコロナ禍で研修を受けることができていない。→リモート研修などを取り入れてみる。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		期ごとに保護者との面談を設け、ニーズや本児についての発達や特徴をみている。専門職による助言や評価も受けている。子によって発達が違うのでその子に合った計画の中で活動を考えている。	

適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		担当がわかりやすく記入し、評価や支援しやすいツールを探したい。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		昨年度書式を変更し利用してみたものを再度見直した。また、項目も検討しなおして使い、具体化した内容がのせられるようにしていきたい。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		担当と計画の内容や支援の方法について話し合いや確認を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		月ごとに日案(スケジュール)を作成し行っている。グループごとの話し合い、全体のケース会議で確認。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		隣接の保育園と合同で行事を行っているので行事に向けて活動を考え計画している。外部機関の先生からのアドバイスを取り入れながら活動が広がるよう考えている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6		月の予定を立てているので週の中で個別、集団活動を組み合わせて作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		朝のミーティングで1日の動きを細かく伝える。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	気になることは必ずその日のうちに話すようにしている。	日々気付いたことを話したりしているが、全員が共通理解できているかというところではないと思う。→グループ内で共有し同じ支援ができるよう心がける。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	視診表を使って保護者にも園での様子がわかるよう記録する。	記録はできるだけしているが検証まではしていない。→どのようにしていけばいいか検討する。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		モニタリングは相談支援機関と一緒に定期的に行っている。	
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		担任も会議に参加している。		
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6				
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			対象者なし		
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			対象者なし		

関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	必要な場合は、ケース会議を行なっている、	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		必要な場合は、ケース会議を行なっている、	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6			コロナ禍で実施するのは難しい。→伊豆医療、市民病院等の専門機関、専門職の来園が毎月あるので、その時に助言をいただいている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6		隣接する園と行事を行ったり、毎日園庭で一緒に過ごしたり自然な交流が持てる。個々に合わせた交流の仕方も工夫している。	
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	1		計画はあり予定しているが、コロナ禍で今年度は開催されいない。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	2	4		ペアレントトレーニング等の支援はコロナ禍もありできなかった。→保護者と話をする際にペアトレの方法等を伝え伝えるよう心がけている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		期ごとに保護者との面談を設け、説明し同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		担任より登降園時に日々の様子を伝えながら家での様子や困っていることなど聞き、助言や支援をするよう心がけている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		父母学びや料理教室を開催し、その中でつながりが持てるようになっている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		相談や申し入れがあった場合、職員で話し合いどうしたら対応できるか考えるようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		月ごとの園だより、クラスだより、年4回の外部の関係者向けのお便りを出している。急なお知らせなどははり紙をして対応している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			

非常時等の対応	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2		コロナ禍で行事などすべて中止となっている。→散歩などで近所の方に合う際には挨拶をしている。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			隣接園と合同で研修を行ったり、職員会議で対応の確認をする。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			月一回、隣接園と合同で避難訓練を行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			園で作成し記入している。職員会で報告し同じことが起こらないよう共有する。
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	3		今年度の研修はできていないと思う。→研修等はコロナ禍で参加が難しいが、情報等を得たり資料の共有などを行っている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			個別支援計画に記入をし、保護者への説明をすることができるようになった。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。